

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2025年第26週 2025年6月23日（月）～2025年6月29日（日） 2025年7月3日作成

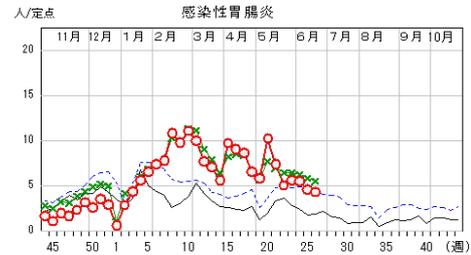
☆定点[※]報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1） 感染性胃腸炎

第26週の報告数は134人で、前週より9人少なく、定点当たりの報告数は4.32であった。

年齢別では、10～14歳（20人）、1歳（18人）、6歳（17人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、西彼保健所（9.00）、県央保健所（8.80）、佐世保市保健所（7.75）であった。

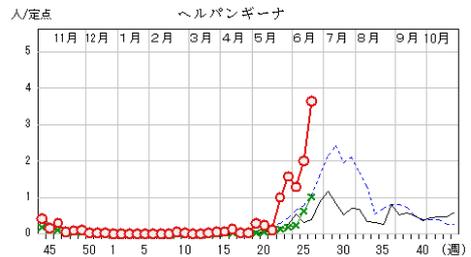


（2） ヘルパンギーナ

第26週の報告数は113人で、前週より51人多く、定点当たりの報告数は3.65であった。

年齢別では、2歳（35人）、1歳（34人）、1歳未満（13人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、長崎市保健所（10.00）であった。

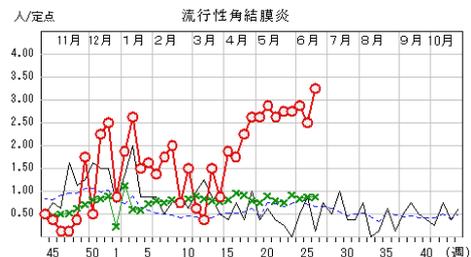


（3） 流行性角結膜炎

第26週の報告数は26人で、前週より6人多く、定点当たりの報告数は3.25であった。

年齢別では、10～14歳（3人）、30～39歳（3人）、40～49歳（3人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（18.00）であった。



○ 2025(長崎県) 前年(長崎県)
× 2025(全国) 前年(全国)

※急性呼吸器感染症定点数：51、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12
（2025年第15週より定点数が変更されました）

☆上位3疾患の概要

【感染性胃腸炎】

第26週の報告数は134人で、前週より9人少なく、定点当たり報告数は4.32でした。地区別にみると、西彼地区（9.00）、県央地区（8.80）、佐世保地区（7.75）は、他の地区より多くなっています。今後も動向に注意し、予防に努めましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【ヘルパンギーナ】

第26週の報告数は113人で、前週より51人多く、定点当たりの報告数は3.65でした。地区別では、長崎地区（10.00）が警報開始基準値「6.0」を上回っています。

本疾患は、発熱と口腔粘膜に現れる水疱性発疹を特徴とし、夏期に流行する小児の急性ウイルス咽頭炎です。主な原因はエンテロウイルスで、感染経路は、飛沫感染と患者の便に汚染されたオムツや下着、器物からの接触感染（糞口感染）です。便からは1週間から4週間にわたりウイルスが検出されるため、回復後も感染源となり得ます。保護者は乳幼児に手洗いを励行させて、感染防止に努め、体調管理に気をつけてあげましょう。

【流行性角結膜炎】

第26週の報告数は26人で、定点当たりの報告数は3.25でした。地区別では、県南地区（18.00）が多く、警報レベルの報告数となっています。

本疾患は、アデノウイルスによる疾患です。涙液や眼脂で汚染された指やタオル類からの接触感染により伝播し、小児からお年寄りの方まで幅広く罹患します。潜伏期は8日から14日で、急に発症し、眼瞼の浮腫、流涙、耳前リンパ節の腫脹を伴います。角膜に炎症が及ぶと透明度が低下することがあります。有効な治療薬はなく、対症療法が基本となります。感染力が強いので、眼分泌物はティッシュペーパーなどで除去し、直接手で触れないように気をつけましょう。また、手洗いを励行し、洗面器やタオルの共有を避け、感染防止に努めましょう。

★トピックス：伝染性紅斑の報告が多くなっています

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」と呼ばれることもあります。約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）が現れます。続いて、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、これらの発しんは1週間程度で消失し、ほとんどは合併症を起こすことなく自然に回復します。一方で、これまで伝染性紅斑に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性がありますので、注意が必要です。

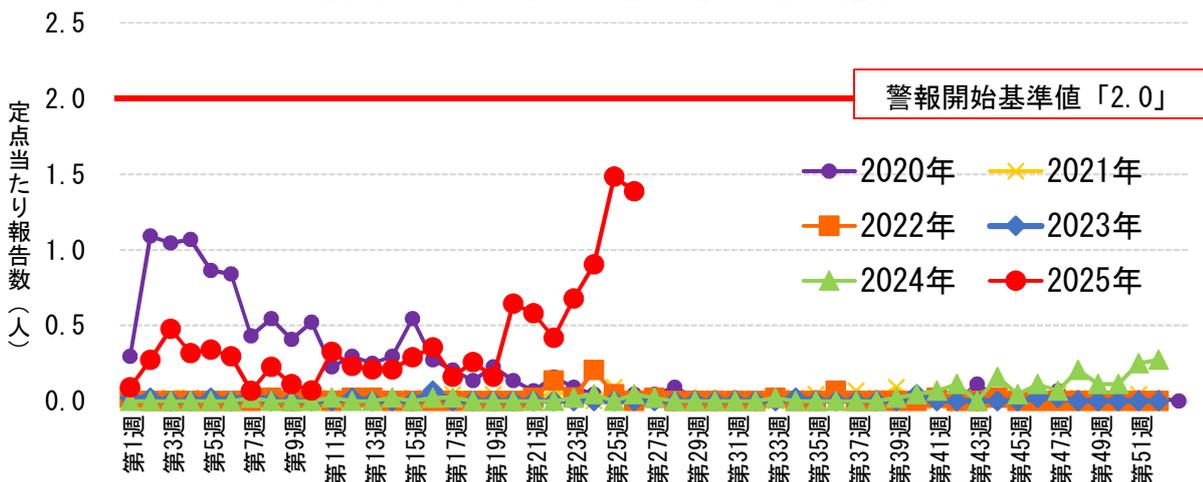
2025年第26週の定点当たり報告数は「1.39」で、前週より減少しましたが、過去5年と比較すると、報告が多い状況です。地区別にみても、県央地区（3.80）、長崎地区（2.00）は警報レベルの報告数となっています。

感染経路は、飛沫感染や接触感染で、かぜ症状のある時期にウイルスの排出が最も多くなるといわれています。治療薬やワクチンがないため、感染予防が重要です。特に妊娠中の方やそのご家族ではかぜ症状がある方との接触をできる限り避け、手洗いやマスクの適切な着用など感染予防に努めましょう。

（参考）厚生労働省 伝染性紅斑

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/fifth_disease.html

長崎県における伝染性紅斑報告数の推移



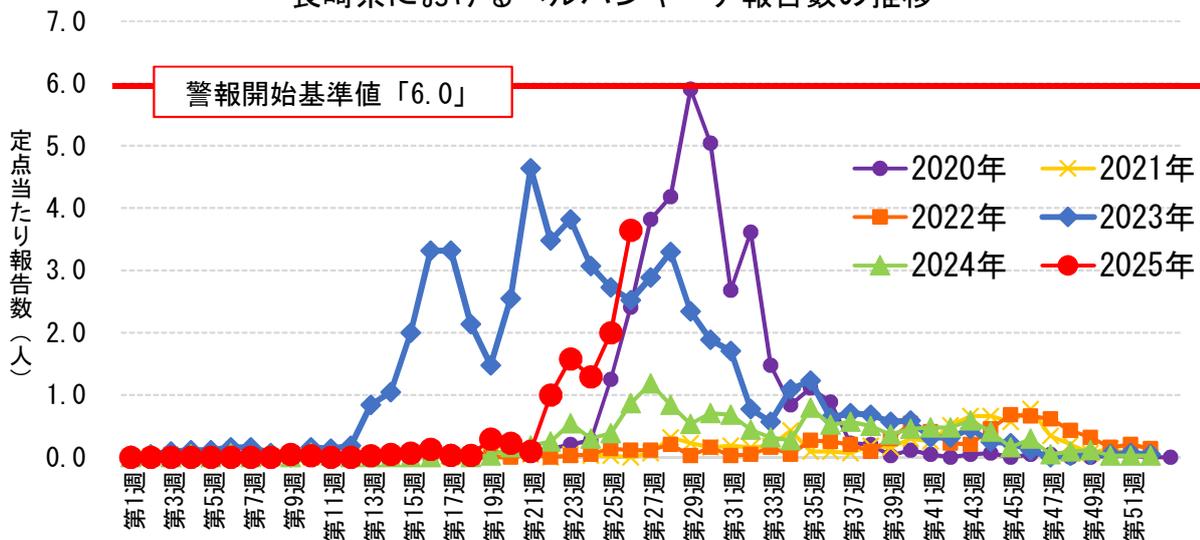
☆トピックス：ヘルパンギーナに注意しましょう

ヘルパンギーナは、4歳以下の乳幼児を中心に夏期に流行する小児の急性ウイルス咽頭炎です。感染から2～4日後に38度以上の突然の発熱に続いて、のどの痛みと口の中の水疱が現れます。ほとんどが2～3日以内に回復しますが、合併症として、脱水症や熱性けいれん、まれに髄膜炎や心筋炎を起こすことがあるので、注意が必要です。

主な原因はエンテロウイルスで、感染経路は、飛沫感染と患者の便に汚染されたオムツや下着、器物からの接触感染（糞口感染）です。便からは1週間から4週間にわたりウイルスが検出されるため、回復後も感染源となり得ます。保護者は乳幼児に手洗いを励行させて、感染防止に努め、体調管理に気をつけてあげましょう。

第26週の報告数は113人で、前週より51人多く定点当たりの報告数は3.65でした。地区別では、長崎地区（10.00）が警報開始基準値「6.0」を上回っています。例年7月に報告が多くなりますので、今後の動向に注意し、予防に努めましょう。

長崎県におけるヘルパンギーナ報告数の推移



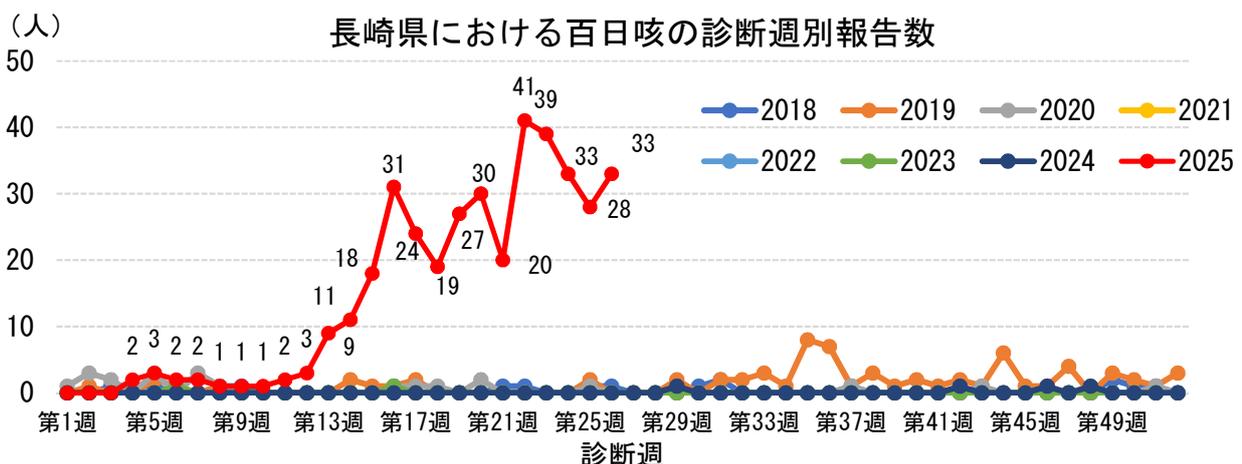
☆トピックス：百日咳の報告が多くなっています

百日咳は、主に百日咳菌の感染によっておこるけいれん性の咳発作を特徴とする気道感染症です。潜伏期は通常5～10日で、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増え程度も激しくなります。夜間の咳発作が多いことも特徴で、回復までに2～3か月かかることもあります。また、乳児では、肺炎、脳症を合併し、重症化することもあります。

2025年第26週には33件の報告があり、年代別では、10代（12人）、10歳未満（10人）が多くなっています。また、2025年第26週までの380件の報告においても、10代（196件、52%）、10歳未満（95件、25%）が多く全体の約8割を占めています。

感染経路は飛沫感染ですので、咳エチケット、手洗い、手指消毒で予防に努めましょう。

長崎県における百日咳の診断週別報告数



◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（30代・1名、70代・1名）
 無症状病原体保有者 女性（30代・1名、40代・1名）
 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 無症状病原体保有者 女性（20代・1名）
 4類感染症：日本紅斑熱 患者 男性（70代・1名） 女性（80代以上・1名）
 レジオネラ症 患者 男性（80代以上・1名） 女性（80代以上・1名）
 5類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 患者 男性（80代以上・1名）
 梅毒 患者 男性（20代・1名、30代・1名） 女性（80代以上・1名）
 無症状病原体保有者 女性（30代・1名）
 百日咳 患者 男性（10歳未満・5名、10代・6名、50代・3名、70代・1名）
 女性（10歳未満・5名、10代・6名、40代・4名、50代、60代、70代・各1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第21~26週、5/19~6/29)

疾患名	定点当たり患者数					
	21週	22週	23週	24週	25週	26週
	5/19~	5/26~	6/2~	6/9~	6/16~	6/23~
インフルエンザ	0.86	1.12	1.16	0.76	1.18	0.90
新型コロナウイルス感染症	0.78	0.73	0.90	0.78	1.16	1.39
RSウイルス感染症	0.26	0.13	0.10	0.23	0.16	0.87
咽頭結膜熱	0.90	0.58	1.00	0.55	0.55	0.65
A群溶血性链球菌咽頭炎	2.48	2.00	3.16	2.94	3.35	2.90
感染性胃腸炎	7.42	5.06	5.65	5.52	4.61	4.32
水痘	0.97	0.74	0.74	0.42	0.71	0.81
手足口病	0.45	0.06	0.42	0.19	0.26	0.42
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.58	0.42	0.68	0.90	1.48	1.39
突発性発しん	0.52	0.45	0.39	0.42	0.26	0.32
ヘルパンギーナ	0.10	1.00	1.58	1.29	2.00	3.65
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.10	0.03	0.06	0.06	0.03	0.03
急性出血性結膜炎	0.75	0.63	0.50	0.38	0.38	0.75
流行性角結膜炎	2.63	2.75	2.75	2.88	2.50	3.25
細菌性髄膜炎	0.08	0.08			0.08	
無菌性髄膜炎		0.17				
マイコプラズマ肺炎	0.42	0.33	0.58	0.08	0.08	0.08
クラミジア肺炎（オウム病は除く）		0.08				
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.67	0.33	0.67	0.25	0.08	0.08

※2025年第15週（4月7日~4月13日）~

急性呼吸器感染症（ARI）	66.96	66.00	67.35	55.71	55.16	54.33
---------------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第26週、6/23~6/29) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.90	0.14	0.55		0.20	1.38	0.60			8.00	
新型コロナウイルス感染症	1.39	1.00	0.82	0.33	0.40	1.38	1.80	4.00	0.33	6.00	0.33
RSウイルス感染症	0.87		0.33		4.33			6.00			
咽頭結膜熱	0.65	0.50	0.17		1.00	1.20	0.33	2.00			1.50
A群溶血性链球菌咽頭炎	2.90	0.75	0.50		4.67	1.80	15.33	5.00	2.50		
感染性胃腸炎	4.32	7.75	3.67	2.50	9.00	8.80		2.50			
水痘	0.81	1.00		0.50	1.67	0.20			0.50		6.50
手足口病	0.42	0.25	1.50			0.60					
伝染性紅斑（リンゴ病）	1.39	1.75	2.00	0.50	0.67	3.80	0.33			0.50	
突発性発しん	0.32	0.50	0.33	0.50	0.33	0.20		1.00		0.50	
ヘルパンギーナ	3.65	2.00	10.00	0.50	1.00	4.40	0.67	3.50			5.00
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.03					0.20					
急性出血性結膜炎	0.75							6.00			
流行性角結膜炎	3.25	1.00	2.33					18.00			
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.08		0.33								
クラミジア肺炎（オウム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.08		0.33								
急性呼吸器感染症（ARI）	54.33	48.57	86.82	20.33	76.20	64.75	25.80	44.67	4.67	45.67	34.00